

ホーム名：グループホームこみち①					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用さん1人1人の生活歴を大切に、少人数の家庭の雰囲気の中で気楽に生活をしていただくことを理念としている	「癒しを大切に」安心、安全、快適に暮らしていただけるグループホームの創造を理念として掲げ、一人ひとりを大切に考える管理者の思いを職員も共有している。	介護で何が大切であるかということをよく理解して、入居者の心に寄り添う介護をしているので、これからも穏やかに暮らせる支援、介護を続けられたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩コースにお寺、公園等を入れているので地域の人とあいさつをしたり、言葉を交わす機会を多く持っている	近所のお寺の地蔵盆や神社の祭り、地域の盆踊りを通じて交流を持ち、入居者が作った雑巾をお寺で使用してもらっている。散歩の時に声掛け、挨拶を交わす近所の人もたくさんおられる。	出来るだけ多くの人と接することができるのは楽しみでもあり、良い刺激にもなる。地域の中に溶け込んだ地域ぐるみの支援を維持していかれたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症」を理解していただくため地域、病院、行政と協力して講座開催を行っている。また、地域の保育園と交流を週三回行う。中学生の職業体験を受け入れている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、運営会議を行っている地域の自治会長、地域包括支援センター、家族（または民生委員）、施設長、管理者で行っている（第四木曜日・11時から）	二ヶ月に一回開かれる運営推進会議には民生委員や地域包括支援センターから参加が見られる。民生委員、包括からは連絡事項の伝達、「こみち」からは行事等の報告がされ、地域の行事や研修への参加依頼の連絡も受ける。	家族や市町村に対しても毎回の会議開催前にお誘いの連絡、開催後に議事録の送付等運営推進会議の参加者が今よりも少し増えるように工夫をされたい。議事録の充実を願う。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターを中心に地域のグループホームの代表者が意見交換会を開いている。また中学生の職業体験を受け入れている	市の高齢社会室の職員とは相談をしたり、指導を受けたり普段から関係を密にしている。	中学生やヘルパー実習生の受け入れをしたり積極的にホームの運営をしているのは非常に評価できるところでありこの姿勢をできる範囲で継続されたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	制度についてはスタッフ会議の中で学ぶ機会を持ち、相談のあった場合は制度について情報提供を行い支援を行っている	基本的に玄関、窓に施錠をしないという介護を実践している。入居者の安全面に気をつけながらできるだけ尊厳を守る支援を工夫している。	身体拘束については管理者、職員共に正しく理解している。入居者の柔和な表情がこれからも続くよう期待している。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	理念において虐待はあってはならないことであり、理念に基づいた支援を目指し知識を学ぶ学習会を行う		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>知識を学ぶ学習会を行い資料を地域包括センター、市役所等に行き集め、学習を行う</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書、重要事項説明書に基づいて説明を行い、質問、要望などに応えている</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族と密に連絡を行い意見を言っただき、その意見を全体に反映している</p>	<p>利用料の支払いは直接家族に来所してもらっていて、その折に入居者の様子や家族からの要望も聞く。最低半年に一度は来てもらい、写真等で日頃の様子を報告し今後の方針など相談する機会を持っている。</p> <p>家族が知りたい入居者の日頃の様子や楽しい行事の際の笑顔の様子、健康面の報告を今後も出来るだけ頻繁におこなうよう期待する。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>それぞれの職員が各々担当を持っている。業務の中での意見や提案を月一回のスタッフ会議を行い聞く機会を設けている</p>	<p>管理者と職員の関係は良く、意見は述べやすい。提案事項はスタッフ会議に出され、話し合われる。</p> <p>職員から、意見が言いやすくアイデアを提案しやすいホームである。今後も協力してホームを支えてもらいたい。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>離職者を減らすためシフトに無理のないよう意見を反映している</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の得意、不得意を明確にして課題別研修または個別に研修に行っている</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>施設連絡会や近隣のグループホームと交流を行っている</p>	

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族から入所の相談を受けた場合、可能な限り本人様同行の見学を勧めている。また、自宅に本人を訪ねて安心感、信頼関係を築き、コミュニケーションを図っている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	電話、訪問による相談は随時対応しています。内容によっては調べ、後日連絡するようにできるだけ支援をしている		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性が高いと思われる方、経済的な面等により、状況を判断し情報提供を行っている		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にすごせることの喜びを意図的に伝え感謝したり、互いの身の上話をしたり、共感しあうことに努めている		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活または行事等をこまめに伝え、家族に参加を呼び掛け、職員と一緒にご本人を支えている関係を築いている		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時、本人の今までの生活の中で大切にされてきたことの把握に努め、可能な限り関係継続ができるように支援に努めている	友人が訪問してくれて居室で過ごしたりして、半日位楽しく過ごすこともある。また昔からの馴染みの場所や好みのケーキ屋さんに出かけたりしている。	ご近所の人との声かけや挨拶、友人の訪問時のゆったりした会話と楽しい時間、入居者同士や職員との人間関係の中で暮らしていける支援をこれからも続けられたい。
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや外出、買い物、畑作業や共同制作の貼り絵を行い共有する機会作りをしている		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族の相談に応じたり本人を見舞い、面会を行っている		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人の思いを聞き、その人らしい生活を過ごせるように支援に努める	常に寄り添って話を聴く姿勢をもち、その人となりを把握するよう管理者、職員共に努めている。	優しく寄り添ってくれる人がいるという安心感を与えられることは簡単なことではないが、これからも日々の介護の中で継続されることを願う。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	本人から得られた情報、家族からも情報をいただき、今までの暮らしを大切にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体操、散歩、家事などの日課を作りその関わる姿勢を見て状況把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者、計画作成担当者を中心にご家族との話し合いを行いスタッフ会議でサービス担当者会議に反映し互いに意見を出し合い介護計画書を作成している	入居前の面接の時から情報を得るようにし、入居された日にケアプランを作成し、半年から一年後見直しをする。日々の生活の中で半年ごとにモニタリングを行なう。	スタッフ会議で日々の気づきを伝え共有することで小さな変化にも対応していこうと努めているので今後も介護に対する職員の真摯な態度に期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤時まず健康管理表と管理者日誌、個人記録に目を通すことを徹底し指導している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	書類等の申請、更新の代行を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを依頼している 地域の催し物には積極的に参加している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師に利用者の状態を伝えるためノートを作成している	ホーム立ち上げ時の妹尾医院にはインフルエンザの予防注射時をお願いしている。定期健診月2回は向山病院をお願いしている。	妹尾先生は入居者の初期の様子もわかってくださっており先生も入居者も安心感につながっている。向山病院とは連携が取れ救急や重篤時には親身に往診していただき、看取り時の指導もしてもらっている。

31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>週1日の看護師出勤日にそれぞれ利用者様の状態を伝え、漏れの無いよう連絡ノートを活用している</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>医療連携医の月2回の訪問診療を実施し普段から利用者のことを把握してもらっている。また入院された場合ケアマネと管理者で週2・3回見舞い様子を窺いに行っている</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族・主治医と話し合いを持ち、その都度職員全員に方針を伝え共有している。</p>	<p>重度化した時の指針を作って入居開始時に説明して同意を得る。実際に終末期ケアの必要性が生じた場合は家族と医師の話し合いの下、家族の要望に沿ってホーム内体制も強化して終末期体制に入る。今までの看取り件数は多い。</p>	<p>管理者は開設当初から家族のように生活されている入居者を最期までお世話したいと考えている。看取り指針も作成し看護師との連携も出来ているが看取り加算の申請はしていない。しかし自分の親のように心からお世話することを旨とし、管理者と職員は一体感を持って終末期介護に努めている。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署等と連携し避難訓練、心肺蘇生法などの研修を定期的に行っている</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>会議の際話し合い勉強会を持っている。また、消防署と連携し定期的に訓練を行ったり地域の訓練に参加している</p>	<p>防災訓練は年2回のうち1回は消防署の指導の下、通報するところからスタートしている。消防署から指摘を受けたことは職員に周知している。もう1回はホーム内自主訓練をしている。地域の消防団の支援で助けに来てくれることになっている。食糧品10日分・水・おむつの備蓄は出来ている。非常持ち出し袋は各ユニットの玄関に用意している。スプリンクラーは設置済みである。</p>	<p>地域の訓練に参加することでホームの災害時に協力が得られることになり、交流にも繋がっている。災害時避難場所は招提小学校で家族にも伝えている。非常持ち出し袋には軍手・懐中電灯・電池などが入れている。行政の発表によると活断層はなく安全地帯とのことであるが、油断せずに災害に備えていただきたい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者全員が人生の大先輩ということを忘れず普段から接するようになっている	職員採用時にはホームの理念や方針も伝えている。会議室には職員の心得を掲示して、理念の周知を図っている。	管理者は入居者は人生の先輩であるという観点から人格の尊重、尊厳の確保、即ち入居者が嫌な思いをされないケアということを指導している。充分出来ていると思うことから進歩が少ない、これからも日々研鑽され更なる向上を期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人への伝え方も家族様に確認して、納得してもらえる内容を選んでいく。不安な心情を理解し、家族とともに密な交流に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの意見を聞き意欲を引き出し、出された希望に職員は柔軟な対応に努めている。本人の持っている力に支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には衣類を選別し、普段でも整髪等習慣にしている 月一回訪問美容を行っている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを把握して食べ物にも配慮を行い、配膳、茶碗洗いお米とぎなども一緒に行っている 下肢の自由が利く方には下膳もお願いしている	毎日の食事は調理担当職を配置してホーム内調理をしている。週のうち3日分はレシピ付き食材を届けてもらい、後の4日はホームで食材を買い作っている。”出来ることはしてもらおう”ということで手伝える方は手伝っている。入居者の要望に沿った外食（パスタ屋、喫茶店、回転すし）にも行っている。	高齢になり何よりも楽しみは「食」である。外部業者に任せる事業所が多い昨今、ホーム内調理は大変望ましい。お節や行事食は管理者と手伝える入居者で作り写真も撮っている。また折々に外食も楽しんでいる。職員も一緒に食卓を囲んでいただくと更に家庭的になると考える。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	普段の会話の中から本人の好みを聞きその時に合ったバランスを考えたメニュー作りに努めている。また、その人に合った調理方法で提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、一日一回は義歯を洗浄液にて消毒を行う。必要な方は訪問歯科を行い連携を図る		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定期的に排泄の声かけを行いお一人お一人のリズムをつかむ。オムツの使用はプライドや自責の念に配慮しながら気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の自立をいつまでも続けてもらえるように重度の方もトイレに座っていただいている。薬に頼らないために、ヨーグルトにバナナ・リンゴをすりこむなど食べ物で工夫しているが、薬の服用は致し方ない方もいる。入居者の高齢化に伴いおむつの利用者は増えている。	自立排泄は意欲の回復や身体機能の向上につながる。入居者本人も若いころ一番望んでいたことであるとの認識で日々支援していただけていると思われる。更なる研鑽と支援をお願いする。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を作り個人の排泄、排便を記録し把握する。食事やおやつ素材にも配慮する		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴嫌いの利用者には入浴したいと思えるようにそれぞれ効果的な理由付けの声かけをしている。入浴日以外は陰部洗浄し冬は足浴、夏は夕陽浴をしている	週3回入浴を目指している。重度の方には2人介助で普通風呂に入ってもらおう。4人入るとお湯を換えている。お風呂のない日は足浴をする時もある。行事日のゆず湯、しょうぶ湯、時には入浴剤も利用する日もある。	入浴は衛生的にも身体的にも活性化される。入浴を嫌がる入居者は少ないがバイタルチェックで問題ないときは声掛けなどを工夫し入浴につなげている。出られると気持ちよさそうな表情であるとのことである。足浴も取り入れられこれからの寒さにも万全を期していただきたい。

46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の顔色や表情を観察し、声かけて休息して欲しいという環境作りをしている		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局からの処方箋を基に把握する。また個人記録に様子や変化の観察を行い記入し把握する。医師の指示をうけながら下剤などの調節を行う		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の自発的な役割分担を促しながら張り合いのある日々を過ごせるように支援している。自分のことは自分でしていただくことを基本として見守り、援助している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気をみながら一人ひとりの希望にそって戸外に出かけられるように支援している。買い物に行き本人の希望する物を選んでもらう。	一人の入居者に対して週に2回は外出をすることを目安としている。近所の散歩とホームの畑（歩いて2分ばかり）でお芋ほりをしたり、花を見たり外気浴も兼ねて出かける。季節により近所の公園にお花見に行ったり、日置神社のお祭りに行ったりする。医師の指示をうけて、週に1～2回デイケアに行かれる方もおられる。	近隣は住宅地の間にまだ畑などが残っており散策には恵まれている。ホームの隣の管理者の自宅でご詠歌を挙げる入居者もいる。その向かいの畑で外気浴もできる。外出することで身体機能は活性化する、外に出ると心も引き締め表情もはっきりされる。これからはさらなる支援をお願いする。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行っていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	個々の能力に応じて発信している。暑中見舞い、年賀状の発送も行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分は季節ごとにいすカバー等を衣替えする。庭には季節の花を利用者と植え配置する。また、壁面には毎月季節のものを飾るよう工夫する	リビングは2ユニットとも広く、ユニット②は2階のベランダも広い。壁面の掲示物も入居者と職員の共同制作のちぎり絵がかかっている。各居室の入り口には花の絵のトルペイントの絵が目印となっている。掃除は入居者がデイケアに行っている間に丁寧に行っている。	日当たりもいい明るく広いリビングにはソファがあり、思い思いのところでくつろぐこともできる。入居者と職員とで制作している「ちぎり絵」は介護雑誌のコンクールに出品して入賞を得た。装飾や掲示物は大人のリビングとして設えられている。居室の入り口の絵は管理者の友人が全部別々の絵で入居者の目印になるように作ってくれたものである。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置、中庭を見ながら過ごせるスペース等配慮しまた食卓の席にも配慮している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの衣類の入れ替え。ご本人が作成されたものや家具等持ち込んでもらって居心地よく過ごせるような工夫をしている。毎月自分でカレンダーを作成している	ベッドはホームで整えるが、お布団は家族の持ち込みである。季節の衣類の入れ替えも家族にお願いする。クローゼットが広く箆笥の持ち込みなどはしていない。	家族の支援が難しい方にはホームで支援しているが、馴染みの物の持ち込みが少なく感じられる部屋もある。また入居者の症状にもよるが、カレンダーや時計のない部屋には見当識後退防止の意味から、また家庭的雰囲気作りからも設置を考えてみたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯干したたみまたご自分の居室の掃除等職員と一緒にやる		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない